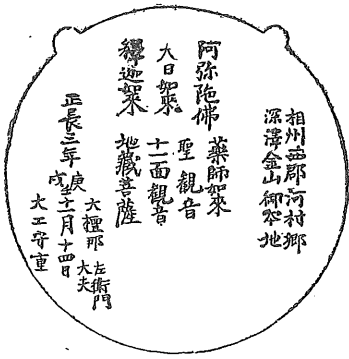


各皆瀬川に合す。

○神明社 村の鎮守なり、里俗高杉太神宮と呼べり、内二宮祠を安ず、外内宮の神體鏡の内佛像二體鑄出せり、外外宮の神體神鏡像鑄出なし、共に無銘なれども、古色にして近代の物とは見えず、例祭八月十六日、山神を相殿とす、村持、下同

○金山社二 内一は正長三年の銅鏡を神體とす、寸八分、佛像七體并に日月を鑄出せり、裏に正長三年の銘あり、按ずるに、正長三年と彫れども、正長は元年の年に當り、みにして、翌年九月既に永享と改元あれば、今年は永享二年に當れり、全○子神社四 ○第六天社二



は破壊して、今は薬師堂に置きり、○不動堂

○愛宕社 ○祝

神社 ○山王社

神體銅鏡、徑一寸八分、中中に座像あり、○稻荷社

○薬師堂 本尊

の外に地藏を置く、小名人小名人遠にありしを、今假に安ずと云、

○地藏堂二

一

○都夫良野村津不羅 江戸より行程廿五里半許、當村も往古は河村郷を唱へり、正保・元祿の二圖に、傍記を加へし事、前村に同じ、民戸二十七、東西廿五町半餘、南北十四町許、酒匂川を隔平山村、北、皆瀬川村、今大久保加賀守忠貞領す、古領主の選替、檢地は萬治二年、稻葉美濃守正則糺せり、村内に奥山家道田原道と云、係れり、幅四

○小名 △小畑元祿の國圖には、當村の △野瀬開戸 △上瀬戸 △下瀬戸 △駒ノ子 △平松

○朽谷山 村北にあり、此外無名の山多く連れり、○林

東南の方にあり、領主の林なり、○古塚 村の中央にあり、高六十、土俗傳へて鐘ヶ塚と唱へ、戦國の間相圖の鐘を撞し處と云、按ずるに、北條氏制據の頃、駿甲の入防がしむ、此塚も其頃相圖の 酒匂川 南を流れ、東西

爲に鐘を掛置し處ならん、河涯に蛇籠を偃て水除とす、村南字古畑尻にて此河水を堰分け、東方に延て、川村山北境土

中を掘貫て彼村に通ず、川村用水堰と云、即瀬戸堰の水

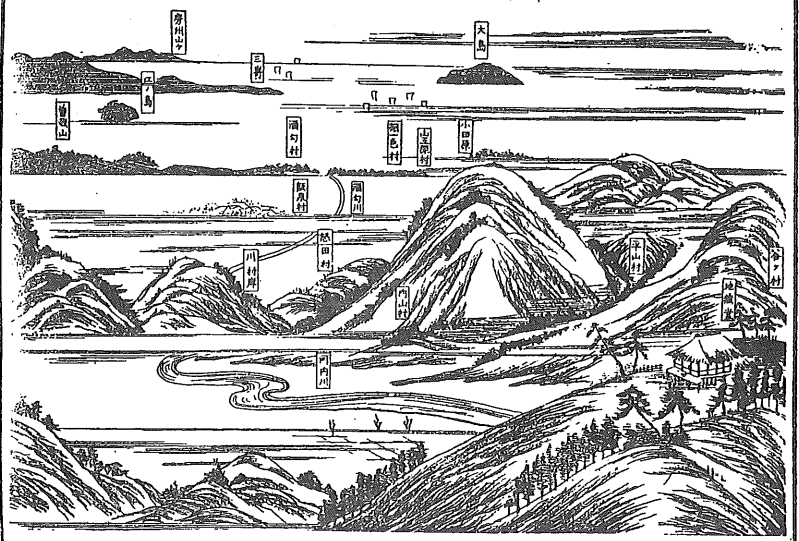
原なり、當村にては用水とせず、○澤四 一は朽谷澤

と唱ふ、西北の方小名小畑より、東北の方川村山北界

に達す、一は竹ノ澤、一は瀬戸ノ澤、一は砂場澤と唱ふ、

各南方を流れて酒匂川に入、○第六天社 村の鎮守、

地蔵堂眺望圖



老櫻圖



村民持、下同、○神明社 ○山神社 ○駒形社 ○不動堂 ○地藏堂 此堂前より四望すれば西に富嶽。鋸山、南に箱根。猪ノ鼻ヶ嶽。足柄峠等の山岳遙に聳え、近くは谷ヶ平山。内山等の山々を眼下に望む、東方には房州の浦々及び本州三浦三崎。江ノ島の地香に見え、近くは酒匂川の田間に曲流するを望めり、委しくは縮圖に就て、言外の勝趣を想像すべし、○櫻樹 村西奥山家道の北方陸田間にあり、樹邊を櫻平